

平成27年度第1回墨田区図書館運営協議会会議録

1 日時 平成27年6月20日（土曜日）
午前10時～午後0時

2 場所 ひきふね図書館 会議室

3 出席者

会 長	永田 治樹	(筑波大学名誉教授)
委 員	西村 均	(墨田区立竪川中学校長)
委 員	金子 キク子	(図書館ボランティア「くさぶえ」)
委 員	持田 由美子	(図書館ボランティア「ブックトークの会」)
委 員	小田垣 宏和	(墨田区ひきふね図書館パートナーズ)
委 員	北村 志麻	(墨田区ひきふね図書館パートナーズ)
委 員	戸島 敦子	(公募区民委員)
委 員	村山 厚子	(公募区民委員)

〈欠席委員〉 河西 由美子 (鶴見大学准教授)
渡邊 圭三 (墨田区立梅若小学校長)

4 議事

- (1) 平成26年度図書館事業の実績報告について
- (2) その他

5 会議録

石原館長 着任あいさつと本日の議題について説明
議題

- 1 平成26年度図書館事業の実績報告について
- 2 その他

永田会長 第1番目の議題に入る。事務局に説明をお願いしたい。

石原館長 配布資料について説明

南部次長 事業概要について説明

永田会長 これについて質問などは。

西村委員 登録者数が増加しているとのことだが、墨田区は人口自体が増加している。それとの関連はあるのか。また、今の15歳人口は1,800人、3歳児は2,500人いる。つまり今後、子どもたちが増える可能性が高い。そういった今後の人

ロピラミッドに応じた図書の購入や工夫について聞きたい。

南部次長 今すぐにはわからない。次回までに資料を作成する。

永田会長 登録者数の構造（実利用者と休眠利用者）を把握しておくといい。墨田区の利用者登録は5年間有効だ。ひきふね図書館の開館でとりあえず登録した人もたくさんいたと思うが、その後使わなくなってしまった人もいるだろう。また、年々、登録者数は増加するが、その数は実利用者とはならない。このずれを把握する必要がある。それでもやはり増えているということは言えるだろう。それともう一つは、人口増との関係だ。そして、実際に使っている利用者がどれくらいいるかという数字が、図書館運営には非常に重要だ。また、実利用者を把握する指標としての、実貸出者数がわかれば代用できる。作業が大変ならば、例えば1カ月サンプリングしてみるのも有効だと思う。実際の姿を把握することで、どこに手を打てばよいかが見えてくるのではないか。

小田垣委員 利用カードは5年ごとの更新によって、更新されないものは抹消されるということか。住民票との連鎖はあるのか。

南部次長 利用カードは5年間使われないと登録が抹消される。住民票との連動性はない。

永田会長 マイナンバーみたいなものが定着すれば、それを図書館の利用カードにすることも考えられる。

北村委員 先ほど西村先生から、中3よりも3歳児が増えているとあった。今後は小学生の人数が増えると思う。以前の協議会で、小学生の登録率は100%近いという話があった。仮説だが、小学生向けの本が不足するのではないか。調べる学習コンクールに力を入れているし、その辺りの対策をしてほしい。

持田委員 利用者が増えると、登録者数が増える。それと資料費の増減との連鎖はあるか。

南部次長 現状、予算要求の算定根拠として、利用者数を元にした要求はしていない。

持田委員 利用者の構成によって、資料費を使う配分はあるか。

石原館長 それについてはしかるべき分析の結果、この層は利用が多いので手厚くする等はしていくべきだと考えている。

永田会長 通常、公共図書館の利用対象者は全人口である。ただし、実際に利用している人口はそれよりも少ない。図書館はその状況を踏まえて、いろいろ裁量する。人口が増えた地域や、増加する世代に対して、図書館サービスを手厚くしたり、それらに関する図書のコレクションをどういった形で反映するかは、いろいろ方法があると思う。

北村委員 来館者のデータについて、開館年度に比べて26年度が減るのはわかるが、これに関して対策は考えなくてもいいのか。民間の感覚から言えば、クレームを言うお客様はありがたい存在で、大抵の人はクレームも言わずに去ってしまう。図書

館では、意見を言うてくるのは本当に図書館が好きなごく一部の人だと思う。キャレル席が混んでいて座れない、WiFi がつながらない、本が全然ない、等の意見を友人から聞く。そういう人は何も言わずに来なくなっている。それらの拾えない声を拾いつつ、何かしら手を打っていった方がよいと思う。

永田会長 対処すべきことの優先順位を見つけることが大切だ。これまで全国の公共図書館で、いろいろな手を打ってきた事例はあると思うので、それらを参考にすればよい。また、ここでは WiFi が使えるから、スマートフォンを持っている人が入ってくる可能性はある。

北村委員 以前、3階のキャレル席でパソコンを使ったら WiFi が弱く、ネットを見ることができなかつたので、やめてしまった。もし WiFi 目当てで来ている人がいたら、そういう人たちは2度と来ないのではないか。

永田会長 WiFi がつながる図書館は、日本の図書館ではさほど多くはない。最近見たスコットランドの図書館政策の文書には、全ての図書館で WiFi を使えるようにしようと書いてあった。

南部次長 WiFi については利用者から意見も出ている。セキュリティの問題もある。内部で検討をさせてもらいたい。

永田会長 せっかく WiFi が使えるならば、WiFi で資料が使える。墨田区の行政資料も WiFi で探せる。それらを伝えるチラシを置く等の PR をしたらよいのではないか。WiFi を使うこと目当てで来る人もいる。今の図書館では、紙と電子と両方使えないといけない。席が足りなくなるかもしれないが。

南部次長 キャレル席は今、2時間の枠で使ってもらっているが、中には途中で使わないまま帰ってしまう利用者もいる。機械上は満席だが空席があるという状況なので、30分ほど席をはずしていたらキャンセル扱いさせてもらうよう注意を呼びかけ、席の確保に努めている。また、2階のプロジェクトコーナーでもイスの設置はしている。

村山委員 2枚目の2の利用統計の中ほどに、リクエストとある。この受付件数と処理件数の差は、何を意味しているのか。

田中緑図書館長 受付は単純に何件受けたか、という数字。処理はその資料がその人に届いたということ。よって、現在貸出中の本については、処理はまだ完結していない。ベストセラーについてはリクエストが多いので、多くがまだ完結していないということになる。この統計には一昨年リクエストを受けて、昨年処理が完結した数字も入ってくるので、その年度内の全てではない。それらの差である。

西村委員 開館時間の時間帯ごとのゲート通過者はわかるのか。

南部次長 わかる。

西村委員 それも統計としてあると、例えば月曜日の午前中はほとんど誰も来ないというのがわかるのではないか。そういう時間帯に何らかの手を打って、来館者数を

増やすための工夫をする根拠として、統計を使えるとよいと思う。

小田垣委員 正面玄関とこどもとしょしつのゲートで分けた実績も取れるのか。

南部次長 どこまで正確に出せるかわからないが確認する。

北村委員 曜日別も出せるか。

南部次長 出せると思う。

永田会長 先ほど計算してみたが、ひきふね図書館の来館者は1日平均1,500人くらいだ。土日はもっと混んでいるだろう。最高に混んでいるときは何人くらいなのか。

南部次長 今すぐにはわからない。

永田会長 その辺りの感覚は掴んでおきたい。

南部次長 キャレル席で言うと、土日の13時から17時が満席になることが多い。それを考えると、その時間帯が来館者のピークかと思う。

金子委員 読み聞かせや、おひぎでえほんのときは、こどもとしょしつのはだしのコーナーは満員になる。そういう日があることを頭に入れて統計を取らないと、アンバランスになるかもしれない。そういうときは親子で非常に多くの来館者がいるはずだ。

南部次長 それに関連する26年度の課題として、平日午前中のこどもとしょしつは、イベントをやっていないときは利用が少ないという報告を受けていた。今は、イベントの時間をずらしたり、増やしたりということで、いろいろ工夫している。

金子委員 今まで午後だったものが午前中になったり、曜日を変えたりと、こどもとしょしつの担当者も苦勞されている。それに関連して、ゲート通過者数もお願いしたい。

永田会長 雑誌は、タイトル数で数えていると思う。タイトル数の併記がほしい。

南部次長 システム上このようなカウントになっている。今後システム担当とも相談したい。雑誌のタイトル数は次回報告する。

永田会長 統計の取り方は、一応基準がある。たいていは、文部科学省の統計や日本図書館協会の統計の取り方に依存しているが、それらは全国統計だから項目は少ない。図書館の運営のためこれまでの経緯を見ようとすると、もっと広い範囲の数字がほしい。統計の取り方に関しては、JIS X 0814「図書館統計」という規格がある。JISはインターネットで見ることができる。それに基づき数字を取っておくと運営に使えるし、他の図書館とも比べられる。忙しいので、提出を要求されている日本図書館協会や文部科学省の統計だけをやっているが、もう少し詳細な統計として、JISの統計規格を使ってもらえると嬉しい。日本の公共図書館は雑誌タイトルが少なく、せいぜい400、500タイトルくらいか。

南部次長 500タイトルほどだ。

田中緑図書館長 墨田区は周辺区と比べると、恐らく最も少ない。それでもひきふね

図書館を作るときに、なるべくタイトル数を増やすように調整した。利用者からすると、読みたい雑誌は決まってきてしまう。以前は各館全てで、そういう雑誌を買っており、同一タイトルの雑誌で7冊というのもあったが、それだとタイトルを増やせないなので、なるべく複本を減らしタイトルを増やした。それでもまだ周辺区に比べると低い数字だ。

永田会長 地域の雑誌はあるか。

田中緑図書館長 地域のミニコミ誌等は、寄贈で貰っているものもあるので、それらはなるべく集めている。

持田委員 除籍の基準は決まっているのか。

田中緑図書館長 正式なものは現在検討中だが、基本的には利用頻度や利用による痛み、最終利用日からどれくらいの時間が経過しているか等を判断して除籍している。利用がなくても必要なものもあるので、それらは内容を見て保存している。自動出納書庫が出来て収納が増えたので、その辺りを踏まえて、現在見直している最中だ。

持田委員 文書化されたものはないということか。

田中緑図書館長 内部的な取り決めはあるが、基準として出せるものはない。現在作成中だ。

持田委員 現状、各館によって違うということか。

田中緑図書館長 統一してある。規則的に廃棄をしてもいいという部分は作ってある。例えば毎年出るガイドブックは5年以上前のものは捨てる等、出版年等で客観的に判断できる部分については全館に周知している。内容面については、各館から挙がってきたものを、ひきふね図書館でチェックしている。

持田委員 今後の図書館運営において、どういう資料を受け入れて、どういう資料を廃棄するかについて文書化する予定はあるか。

田中緑図書館長 基本的には除籍ではなくて、どういう本を保存していくか、という基準を作っていくことになるかと思う。

北村委員 それらの基準は、他の自治体にもあるのか。

田中緑図書館長 全ては把握できていないが、作っている自治体もあると思う。

北村委員 それに関連するが、個人的には除籍した方がよい本というものもあると思う。実用書で、法律が変わったりすると、その情報が使えなくなったり、嘘になったりする。基準を作っているのであれば、それらの観点も入れてほしい。

永田会長 歴史を研究する人にはそれが必要なのだが、最近のものが必要だろう。なお、公共図書館では一般的に除籍が頻繁に行われている。ひきふね図書館は自動出納書庫が出来て、きちんとした保存基準ないし除籍基準を作ることが可能になった。他の公共図書館に比べればずっと有利な条件だ。なので、他の図書館の廃棄基準よりは、ここは緩くてよいと思う。大変幸運な環境だ。図書は財産登録されるのか。

田中緑図書館長 基本的に本は全て消耗品である。

永田会長 図書館では、もともとは、図書は保存するという意味で備品なのだが、公共図書館では回転が速いので、消耗品になっているようだ。消耗品ということは、いつでも除籍してもよいということだ。住民からすれば、図書をきちんと保存しておいてほしいが、書庫があまりにも小さいので公共図書館に対して言う余地がなかった。その辺りを考えて、現在、保存基準を作られていることと思う。

田中緑図書館長 捨てやすい分、どれを保存するかということになってくる。都立図書館等の協力体制も見て、都立で持っていれば無理にこちらで保存しておかなくてもよい、という判断にもなる。

永田会長 廃棄した本は、自由に持っていってもらっているのか。

田中緑図書館長 リサイクルで提供している。

小田垣委員 相談調査について、内容の内訳等はあるか。見ると、ひきふね図書館が1,026件で、次に多いのが東駒形の980件となっている。来館者数だと2倍近く差があるのに、なぜこれほど東駒形が高いのだろうか。

南部次長 これまでは受けたスタッフの判断となっていた側面もあったので、27年度から統計の取り方を変えているところだ。これらの統計の数字自体が、分析の対象にできるものでなくてはならないと考えている。少なくとも、レファレンスの件数については、しっかり把握しておきたい。口頭の部分には、もしかしたら、歴史の本はどこにあるのか、というような質問までカウントされているかもしれない。

田中緑図書館長 相談の中身のレベルの考え方が、これまでは各館で違っていた。今後統一させるということで、今年度からは正しい数値を把握できるものと思う。

永田会長 ISO(国際標準化機構の規格)の2006年版に対応するJIS X 0814では、そのあたりあいまいな部分が残った。しかし2013年版では、レファレンス質問と案内質問は明確に別々にカウントするようになっている。これに対するJISはまだ出ていないので、その部分について私のほうから後日お伝えする。

金子委員 最後のページに障害者事業概要がある。2-1で、緑図書館が拡大写本を除籍しているが、拡大写本を作るのは大変だ。ひきふね図書館と緑図書館で重複しているのを除籍しているということか。

田中緑図書館長 その通りだ。また、出せないものもある。整理をして本当に提供できるものを絞ってきている。ボランティアの方が練習で作るようなものもあった。かつてはそれらもカウントしていたが、それらはやはり出せないなので、正確な数値だけを把握していこうと整備している。

金子委員 そのページの中で、相互貸借の貸出数と借受数がある。墨田区の図書館の特色として、この中に経済誌がある。目次を点訳して、数名の視覚障害者の方から希望を聞いて、それをデイジー版にしている。墨田区内だけでなく、全国でも読まれる。全国に向けて発信している。例えば日本点字図書館やライトハウスにも入れている。これは大きな特色だと思う。経済誌はスピードが重視される。図書館の障

害者担当が目次を素早く点字に回し、点訳者がそれを点訳して、それを音訳者がデ
イジー版に作成して、区外に発信していることを忘れないでほしい。

永田会長 詳しくは知らないが、障害者に関わる法律が変わる。それによって、読み
取りできる施設や資料が必要になることと思う。

南部次長 金子委員の話にあったように、墨田区の障害者サービスは、昭和51年か
ら始まっており、視覚障害者の方でも読めるマルチメディアデイジーや、映像等が
出るものも提供している。

永田会長 今度の法改正に合わせて何かするということはないか。

南部次長 墨田区立図書館では、ずっと以前から障害者サービスを行っているので、
ここで何か新しく行うというのは、今のところ考えていない。

永田会長 電子書籍の問題もそれに関係すると思うが。

金子委員 著作権法が改正になって、以前は視覚障害者が対象だった面もあるが、今
後は身体の不自由な方にまで拡大された。その辺り、図書館はいろいろ研究してい
るとは思う。

永田会長 事業概要について、いろいろと質問や指摘が出た。これを踏まえて新しい
年度を展開していくが、次の議題に移ってよいか。とくになければ次の議題に入る。
各委員から今年度の抱負をお願いしたい。

金子委員 障害者・地域福祉に関連する団体で、墨田区ボランティアサークル連絡会
というのがある。そこで今年中に障害者の方々を呼んで、彼らが日常何を希望して
いるかを話し合う会を持とうという計画がある。くさぶえでは、経済誌を読んでは
いるところもあるし、デイジーがまだ全員分出来ていないので、それを推進したい。
個々にプライベートテープも作っている。その他には社協だよりや、すみだ地域学
情報 We! を読み継いでリレーしたら好評だった。9月には女性センターで発表会が
ある。墨田のいろいろなものを詰めて、舞台上で会員の発表会をしたい。また三者懇
談会については、すでに図書館で進めてもらっていると聞いている。ぜひ図書館か
らも、担当職員だけではなく、いろいろな人に参加してほしい。

持田委員 昨年度、ブックトークの講習会があって、その卒業生が今年度入った。人
数が増えて活動の幅が広がりそうだ。その一方で、今年から各小学校に、司書のよ
うなスタッフが週2回5時間で入った。その影響かはわからないが、夏休み前まで
に1回もブックトークの依頼がなかった。人数は増えたが、その辺りの兼ね合いが
どうなるかは気になる。個人的には、お金を貰って責任のある人が、学校でブック
トークを行うというのが正しいあり方だとは思いますが、週10時間の中で、ブック
トークをやれというのも無理な話だと思う。それならば我々がやった方がよいのでは
ないか、とも思う。また、個人的に、今年度も調べる学習に協力したいが、その際、
調べる資料がもっと増えればよいと思う。

西村委員 週2回、中学校に担当が来てくれるようになり、利用者や貸出数が増えて

きている。これまでほとんど鍵がかかっていたという状況からは脱することができた。団体貸出の数も増えていくだろう。校長会でも年間指導計画を渡してほしいと話している。各教科ごとに、この時期は社会科でこういうことを勉強しているから、こういう本の団体貸出を行ったらよいのでは、と提案できる。図書の担当者は各学校1名いて、これまで研修会は年1回だった。今年は2回やって、調べる学習コンクールの研修会も、昨日、河西先生講師で行った。50名近くの教諭の参加者がいた。これに関し、小学生は植物や生物等についてたくさん調べるので、夏休み前後の時期に本がなくなってしまう心配がある。ここに中学生も加わることになるので、テーマに沿った本を購入してもらえると助かる。中学校の図書館部では、今年はビブリオバトルの墨田区大会を11月21日に開催することになっている。全校を対象に、各学校から代表1名を出し、墨田区立図書館の職員に審査員をしてもらい、チャンプ本を決めようと思う。ビブリオバトルを行った学校は、昨年3校だったが、今年はすでに6校もある。それらを通じて生徒の読書を促したいと思っている。また、教育委員会指導室が図書館運営に関わってきており、昨年、文部科学大臣賞を取った調べる学習コンクールのインパクトがあったようで、予算がつきやすくなるのかなと思う。ポップコンテストについては、今年は締切りを夏休み後にして募集する。子どもたちはよいポップを作るので、ぜひ利用してほしい旨、図書の教員の自覚を促そうと思う。

戸島委員 中学校の団体貸出は、何校くらい開始したのか。

南部次長 27年4月からこの制度が始まって、中学校は10校のうち、2校である。校長会等でも話をしてもらっているので、いずれ10校全部に広がると思う。

戸島委員 1クラスに対して何冊貸し出すのか。

南部次長 50冊だ。ニーズが増えてきているので、図書館自体の本が逼迫しているのは事実だ。ただ、以前は、1クラス300冊貸していた。現在は、1クラスに50冊、調べる学習用に50冊、合わせて100冊である。学級文庫用は3カ月、調べる学習用は1カ月が期間だ。

持田委員 いろいろな形態があって、学級文庫用に貸し出す場合もあるし、そのときの教科の単元によって相応しい本を貸し出すという形もあり、1クラスに対してもいろいろなアプローチの仕方がある。

戸島委員 調べる学習とは違うが、教科に関連する本が欲しいという要望もあると思う。図書館側で、この教科に関する本はこれくらい揃っているというようなりストはあるか。

南部次長 今はかなり個別に対応しており、そういったものが積み重なってきてはいる。今年の大きな変化として、小学校の社会科部の先生方が見学にきた。5年生の社会の授業をしたいので、図書館の本を使いたいという相談だった。そういう要望に対しては、ブックリストを作成する等、レファレンス的に対応し、資料を提供し

ていこうと思っている。

戸島委員 例えば江東区では、この単元に関してはこれだけ資料が揃っている、というデータを配っている。教員側からすれば、例えば、この社会科の単元に関しては、墨田区は資料が揃っているから借りられる、ということがあると思う。充実していけばお互いにやりやすい。

南部次長 今、図書館は中学校に特化しようと考えている。先ほど西村先生からあったように、年間指導計画を貰えるとなると、こちらの担当でもいろいろ用意できる。中学校の担当は10人の職員だが、ばらばらではなくチームとして同じ資料を持って、どの中学校でも同じ資料を配れるところを目指している。

戸島委員 年間計画で、同じ時期に集中してしまうと困る側面もあるのではないかと、その辺り学校の図書館部が、お互いに調整し合って単元をずらす等の方策をしないと、せっかく集めた資料が使えないのでは、とも思う。

北村委員 そもそも各学校に本がないから、図書館が出さないといけないということなのか。本来ならば図書館でやらなくても、各学校にあるのが理想だと思う。そこまで図書館でカバーしなければいけないという現状になっているということか。

南部次長 墨田区の学校の資料費は、各校の生徒数によって決まってくると思う。他区との比較はしていないが、それなりの金額はあるので最近各学校から選書の相談を受けるようにもなっている。学校で揃えるもの、図書館で共有として揃えるもの、という形が望ましいと思う。

持田委員 学校図書館に必ず教科書を1セットずつ揃えるというのはしてほしい。指導室や校長会の場でも進言してもらいたい。

西村委員 来年度から中学校の教科書は全部変わる。現状、どこの会社のものになるかはわからないが、次年度に揃えてしまえば4年は持つ。資料費もあるので、それは買えるかなと思う。

小田垣委員 パートナーズでは、毎週様々なイベントをしている。今日の午後は、ライブラリー・ファシリテーター養成講座ということで、パートナーズが主体となって図書館を活性化させる人材育成を行っている。まちヨミ in 墨田は、1冊の本を皆で読んで街づくりのアクションにつなげようというもので、先月は20数名集まった人気講座である。明日は小学生向けのデータベース活用講座を行う。これは昨年度一般向けに行ったデータベースの講座を小学生向けに行うというものだ。ウィキペディア等ではなくて、根拠のある有料データベースを使って調べようというものだ。また、外部に向けての活動もしていて、先週、情報ナビゲーター交流会というところに参加した。ビジネス支援図書館推進協会が実施しており、毎年1回全国から、ビジネス支援をやっている図書館の館長、出版関係者、委託業者が参加している。志のある方が集まっているのでとても熱気がある。ビジネス支援で有名な鳥取県立図書館の館長も来ている。また、図書館問題研究会の全国大会が7月5日か

ら7日まで晴海で行われるにあたり、我々にも何かやってほしいとの声があった。テーマ別交流会というところで、ワークショップ的なことをやろうかと考えている。それらに参加することを通じて、問題解決につながればよいと思う。活性化したいという想いは皆が持っていて、それらのノウハウを知りたいというニーズがだんだんわかってきたので、それらの活動を続けていきたいと思っている。

持田委員 そういうチラシはどこに置いてあるのか。

小田垣委員 図書館全館にある。

持田委員 図書館では見かけるがそれ以外は。つまり最近よく言われているのは、図書館に人を来させるのに、図書館内でアピールしても仕方ない、ということがある。図書館以外の人たちをいかにアクセスさせるか、というのが今問題になっているのかなと思う。

小田垣委員 あとはSNSやネットに載せている。

北村委員 区報には掲載している。交換便で全施設への配布は難しいのか。

南部次長 対象施設はかなり増やした。

北村委員 全く対象にならない施設もあるのでは。

南部次長 配布できるのは区内の施設だ。

持田委員 それ以外に、例えばスーパーのレジ前にあるといいなと思う。

西村委員 うちの学校は、学校だよりを町会の回覧板数、町会長へ持っていつている。

永田会長 図書館にはSNSのアカウントはないのか。

北村委員 パートナーズでやっている。

南部次長 図書館そのものにはない。

永田会長 パートナーズのSNSの登録者と図書館の登録者はずれる。SNSの使い方にはいろいろ問題があるが、お金と手間を使わずに広げるための一つの方法である。リアルとネットワークとをいかに組み合わせるかが大切だろうと思う。

戸島委員 この前、英語の読み聞かせがあった。とても盛況で、皆これからも楽しみにするだろうと思った。英語の読み聞かせは今回が初めてか。

南部次長 何回か試行ではやってきた。平日午前中こどもとしょじつの利用が少ないということがあったので、何かできないか考えたところ、とても英語の上手なボランティアの方が見つかり、実施することができた。大変好評で月2回くらいはやりたいと考えている。

戸島委員 日本語の読み聞かせとは違った楽しみがあってよいと思う。また、昔この部屋でハープの演奏があった。あのとき友人と一緒に来ていたが、図書館と全然関係がないようなイベントがあって、ついでに図書館を見ていこう、というふうになれば、図書館に足を運ぶ人が増えると思う。数カ月前に、山梨県立図書館で来館者が急増しているというニュースが出ていた。駅前に建て直し、館内にイベントスペースを設けて、来館者増を狙ったようだ。ひきふね図書館も同じく駅前にあり、広

いイベントスペースはないが、関係ないイベントをして、そのついでに図書館を見ていく人が増えれば来館者数も増えていくのかなと思う。

北村委員 そこが我々の狙いだ。関係ないイベントをすることで、普段図書館に来ない人を呼び込む。イベントに来た人は、ついでにカードを登録していこうかな、本を借りていこうかな、となる。そのように言ってもらえるとありがたい。

持田委員 図書館に関係ないものはないと思う。ハーブの本もある。楽譜もある。ファッションショーもありだと思う。

小田垣委員 一昨日、区民から、あんなところに図書館があるのかと言われた。

北村委員 まだまだ気づきが足りない。

小田垣委員 調整中のイベントだが、スーホの白い馬の中で演奏する馬頭琴の演奏者が、朗読と楽器と写真を使ったイベントを図書館で行ってくれる予定なので、ぜひ来ていただきたい。

戸島委員 ひきふね図書館のイベントスペースはこの会議室だけか。

小田垣委員 あと2階のプロジェクトコーナーとこどもとしょしつだ。

戸島委員 図書のカウンターのある付近でやれたら面白そうだ。

北村委員 2階でやっているときはそれに近い。一般の方もイベントを覗いてくれている。

小田垣委員 最近千代田図書館では書架の中でイベントをやっている。イベント前にマイクで告知をするだけだが、何もクレームがない。参加していない人は本を読んでいるだけだ。

南部次長 2階はそれでもよいと思うが、3階、4階については、ここは図書館なのだから静かにしてほしいと言われたことがある。

金子委員 毎回話しているが、近くを歩いてきた人に対して、図書館の案内がしづらい。駅からは看板が見えるが、歩いている人からはわかりづらい。いろいろ困難だとは思いますが、何とかしてわかりやすくしてほしい。

永田会長 なるべくデザイン性が高く、行きたくなるような表示があるとよい。パートナーズの人が行っているイベントは、図書館と直接的には関係のないようにみられるものもあるが、それによりこれまで図書館に来なかった人が足を向けてくれる可能性がある。図書館が皆の交流の拠点で、図書館が街の交差点になるような動きだ。例えば、欧米では図書館のカウンターの前で、突然4人の人たちが歌い出す、あるいは楽器の演奏が始まる、みたいなものがあり、住民の人たちが図書館を盛り上げてくれる。そういう人たちがたくさんいるということを、他の読者たちも理解し始める。ただ一方で、公共図書館がどんどん賑やかになってくると、考えがまとまらなくなる人もいるので、その利用者のための部分は確保してもらいたい。静かに読書や勉強ができる部屋という形で確保しておけば、そちらへ行ってもらえば済む。ここは別々になっているが、子どもの声がうるさいと言う人もいる。

北村委員 そう言う人たちに出て行ってほしい。静かに読みたい人のニーズもわかるが、家でも喫茶店でもよい。それらの人たちが出ていけば、公共図書館に子連れで来たい人や、友人と話しながら過ごしたい人や、普段来ないような9割方の人があるかもしれないと思う。ごく一部のニーズを守ることに戦々恐々としてほしくない。

永田会長 幼稚園が近くに来るのを嫌がる住民がいたり、他の区だが、図書館が近所にあることにクレームをつけている住民もいる。殺伐とした社会状況の中で、図書館がコミュニティをどう作っていくかということが問題になっている。ここにいるボランティアの方々や図書館職員の方々は、積極的にコミュニティの中心になるような動きをしてもらっていると思う。

戸島委員 子どもの声についても、単にはしゃいでいるレベルと、さすがに注意してほしいレベルがあり、線引きが難しいところだと思う。

永田会長 欧米と比べて、図書館の中の人々の振る舞いについての規制は、日本は相当きつい。欧米人は、日本人よりもずっと周囲のことを気にせず、自分の思い通りにする人たちだが、図書館の中で規制はない。図書館の中での振る舞いはよい。ある図書館の館長は、なるべく規制を作らないようにしている、と言っていた。騒いでいる子どもに対しては、図書館員が注意をするのではなく、親や周りの人がきちんと注意をしてくれている。図書館員は介護係ではない。これらは、地域で子どもたちをいかに育てるか、というような社会問題にもつながる話だ。パートナーズの方々や、子どもや障害者の方を支援してくれている方々が目指しているところの一つは、図書館を地域の場として作ろうとしている話だと思う。それは新しい図書館の潮流なので、円滑に住民に浸透させていくことが必要だ。その一方で、コレクションやサービスの提供については、少しずつ変えていかなければいけない。人々が図書館に来て、何も無いという状況をどうやって打破するかは、長期的な課題である。先ほども述べたが、ここは書庫が大きいので、図書を捨てないでおくことができる。そうすると、周りの区よりもずっとコレクションが蓄積できる。あと10年くらいすると、相互貸借で多く利用されるようになるかもしれない。しかし、それは先の話であって、今すぐに本が欲しいという人について、どういう手当をしたらよいか、コレクションのあり方を考えてもらいたい。一つは電子コレクションだが、相変わらず電子書籍の問題は、この国ではまだ全く進展していない。これまでと同じような、物理的な図書を買って集めるというスタイルで、電子的コレクションについては対応できないと個人的には思う。その話はまたいずれしたい。先ほどインターネットの話が出たが、ネット上には無料で使えるものがたくさんあるので、ぜひそれらからサービスを開始してもらえるとよい。例えば青空文庫でも1万点ある。図書館で青空文庫が検索できるようになればいいし、そこまでいかななくても、図書館員がこうすれば使えるということを利用者に言えば、皆が読める。漱石全集の図書がなくても青空文庫があれば読める。参考資料・統計書のほとんどは、電子政府

サイトを見ればだいたい出てくる。その辺り、ビジネス支援で無理に買わなくても、多くはインターネット上で見ることができる。図書館員が住民にそれらのことをうまく伝えられるとよいと思う。青空文庫以外にも、童話、海外文学集、絵本もある。また、雑誌記事では、以前も言った CiNii がある。そのような世間に溢れているサービスを、なぜ公共図書館は見していないのか。それらを使えば、今までの図書館に来る人たち以外の、図書館には何も無いと思っている人たちを対象にできる。

持田委員 それらは図書館に来る必要がないのではないか。CiNii や青空文庫は家で読めてしまう。それを図書館でやる意味はあるか。知らない人たちに啓蒙するという意味か。

永田会長 その意味もあるし、そういう道具の整備が必要ということだ。日本は豊かな国だが、そういう道具がない方もたくさんいる。なので、図書館でサービスするものを、そちらへ寄せていく。例えばスマホを持って来れば図書館でも楽しめるようにする。マンガでもよい。というわけで、一方でイベントをやりつつ、他方で図書館サービスの方向づけを考えてもらえるとよいと思う。次回は今日の話をもう少しつないでいきたいと思う。今回はこれにて閉会とする。